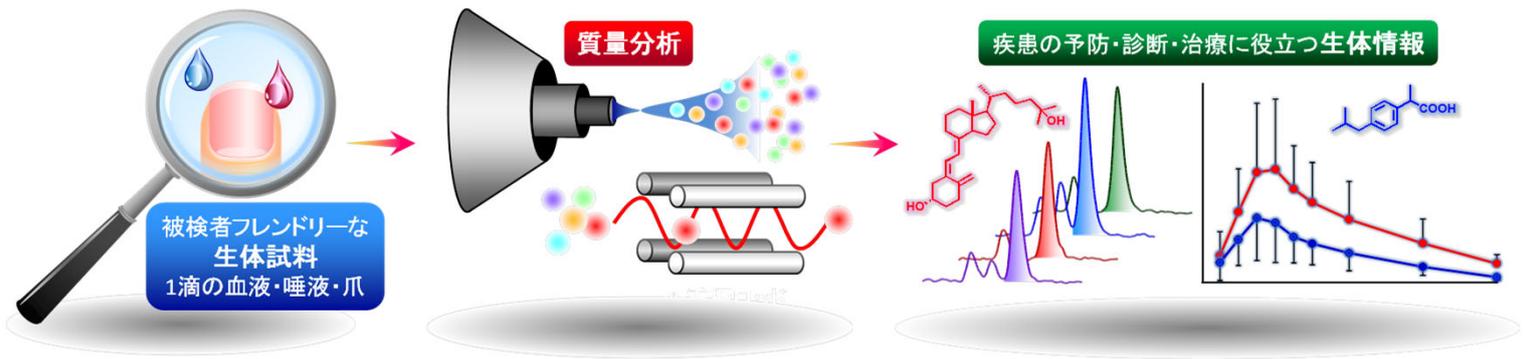


薬学科

東(達)研究室(臨床分析科学)



病気を治すためには、まず何の病気か診断し、進行具合を的確に把握しなければなりません。

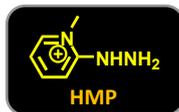
最先端の**質量分析技術**と独自に開発した**試薬**を組み合わせ、**超微量 (ピコグラム = 1兆分の1 g)**のホルモンやビ

タミンを捉え、これまで不可能であった**無侵襲検査**、病気の**早期発見**、**治療効果確認**を可能にすることを目標に研究しています。

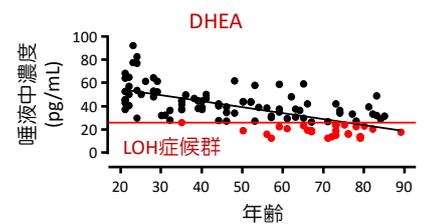
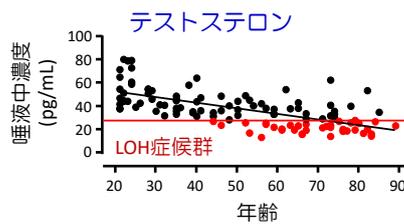
LOH症候群(男性更年期障害)の検査法の開発

唾の**長所**: **どこでも** (自宅でも), **誰でも** (医師・看護師でなくとも), **痛みを伴わず** (針を刺さずに), **簡単に** 採取可能。

唾の**欠点**: **ホルモン濃度が極めて低い** (血液の100分の1程度) での測定が難しい。



唾液でLOH症候群の検査を可能にします

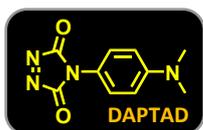


新生児のビタミンD欠乏症の検査法の開発

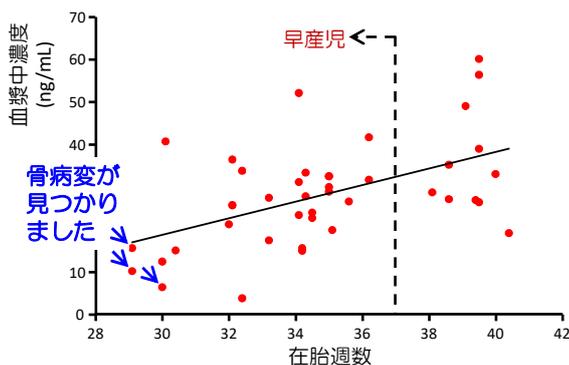
早産児の**ビタミンD欠乏** ⇒ **くる病** (骨の病気) が注目されている。

私たちが見つけた**診断マーカー = 25(OH)D₃S**を使い、

血液1滴でビタミンDの供給状態を評価。



血液1滴で新生児のビタミンD欠乏症を検査します



爪を用いるステロイドホルモンの慢性分泌異常の検査法の開発

爪: 採取・保管・運搬が**簡単**。

中長期 (数週間~1か月) の**生体情報**を保存。

爪からステロイドホルモンの慢性分泌異常を見つけます

